

尾鷲市廃棄物減量等推進審議会議事録（要約）

平成27年度第1回尾鷲市廃棄物減量等推進審議会

日 時：平成27年7月30日（木） 13：30～15：30

場 所：尾鷲市中央公民館1階視聴覚室

出席委員：上村紀美男委員、上村隼右委員（副会長）、尾川幸穂委員、川上尚子委員、塩津史子委員（会長）、庄司あやめ委員、世古克人委員、谷としか委員、西村美代子委員、野田隆代委員、林幸喜委員（副市長）、山下穂積委員、山本樹委員（学校教育担当調整監）

環境課：仲課長、福屋課長補佐、錦係長、林係長、西主査、北村主査、直江主査

※市長は委嘱状と諮問書を渡した後、退席

（市長挨拶）

（市長より委嘱状の交付）

（仮議長を選出）

（尾鷲市廃棄物減量等推進審議会設置要綱の改定について、事務局より説明）

（役員を選出。会長、副会長を選出）

（諮問。市長より会長へ諮問書を手交）

（議事進行を会長へ交代。会長挨拶）

（委員、事務局職員自己紹介）

（今後の審議の進め方について、事務局より説明。その後に質疑応答）

<審議委員>

9月に答申とあるが、そんなに早く出来上がるものなのか。

<事務局>

厳しいスケジュールなので、1回1回の濃度が濃い会議になっていく。時間的なこともあり、ごみ減量について早急に話し合って実行しなければならないので、頑張ってまとめていきたい。

<審議委員>

もっと早く取り組むことはできなかったのか。

<事務局>

9月の答申書を目指して、皆様から意見を頂きながら形を作り上げていく。1回1回の見直しをその間に確認してもらいながら、最終的には10月に仕上がればと考えている。

<審議委員>

会議は月1回というのではなく、必要に応じて開催するのか。

<事務局>

今のところ月1回を予定している。

<審議委員>

アンケート調査はどれ位の範囲を考えているのか。

<事務局>

今年度に市の一般廃棄物処理基本計画を策定するが、その中で新しいごみ処理施設についても考えている。アンケートはそういう幅広いものを考えており、ごみの有料化についての設問について本審議会でも揉んでもらいたいと考えている。

<審議委員>

アンケート調査が一番のポイントではないか。当審議会が果たす役目はアンケートが基本になってくるのではないか。

<事務局>

今回についてはごみの現状を知ってもらうことがメイン。そして、アンケートの案をお示しするのでご意見を頂きたい。次回までにアンケートを回収して、まとめた結果を会議の参考資料として使って頂き、ごみ減量や指定ごみ袋料金による市民負担についてのご意見を頂きたい。

<審議委員>

アンケートの配布はどういう方にするのか。

<事務局>

尾鷲市民の方に無作為に行なう。ごみ減量に関する所を抜粋したので、この他に聞いた方が良いことなどを会議の中で言ってもらえば参考になりたい。

<審議委員>

スケジュールにある「廃棄物の現状について」の説明を聞いた上で、アンケート調査について検討した方が良いと思うので、この順序でやって頂ければと思う。

(平成24年度答申書「家庭系・事業系一般ごみの有料化について」と廃棄物減量等推進審議会参考資料について事務局より説明。その後に質疑応答)

<審議委員>

可燃ごみの4千トンが家庭系と事業系を合わせたものだと思うが、その内事業系のものについてはどれ位含まれているのか。

<事務局>

この表の4千トンは全て家庭系ごみであって、事業系は含まれていない。週に2回パッカー車で回収する分である。

<審議委員>

週に2回の収集には事業系も含まれているのではないのか。

<事務局>

含まれているが、一緒に回収しているため判別できない。

<審議委員>

この審議会の大きな目的は一般家庭のごみ減量を求めることだが、併せて事業系のごみ減量についても検討すべきではないか。一般家庭では小さい袋を1つか2つしか出していないが、事業者は20も30も出している。環境課がこの問題を努力して検討しないと、一般家庭だけ頑張ったのでは大した目標が達成できないのではないか。

<事務局>

収集ごみについてはその辺りの啓発も行なっていきたい。

<事務局>

資料にある「尾鷲市清掃事業の概要」の19ページでは、収集ではなく処理での数値になるが、家庭系ごみが5,710トン、事業系ごみが1,554トンとなっている。

<審議委員>

ごみ袋は高い。縦に裂けるし、新しい黄色いごみ袋については取っ手が無いので、遠い所へは持ち運びにくい。

<審議委員>

先日、婦人会で市長と語る会を開催したが、取っ手が便利だという意見が多かった。強いものをということで、新しいごみ袋は柔らかく弾力性があるものになった。また450のポリバケツには取っ手のあるものではピッタリはまらなかったのも、取っ手が無くなったということを知った。私自身も取っ手がある方が使いやすいと感じる。

<審議委員>

事業所と家庭のごみは厳密に分かれていない。事業所の分をきっちり分けられれば、ごみは大分減ると思う。そこが問題だと思うが、家族で食堂をやっているような所なんかは判断が大変難しい。ごみ袋を買っているのだから、これ位入れても良いという考えがあり、分別については緩いと思う。よそから来た人にこれほどどこへ入れれば良いのかよく聞かれるが、尾鷲市の場合、間違ってもだいたい持って行ってくれる。県下ワースト5位はその辺りが影響しているのではないかと。分別が厳しい市町はいくつにも分けているが、費用対効果は上がってないと思う。減量を追求するならそこまですべきだが、尾鷲市は費用対効果を考えてガチガチにせず減量していくことを考えていくべきではないのか。

<審議委員>

新しいごみ袋のPRが不足している。私の認識不足かもしれないが、PRが浸透していれば不平不満も無くなっていくのではないかと。私の地区では猫や犬がごみを散らかせており、その対策として地区がスチールや網を被せたが、行政でやってもらえると良かった。アンケートについて、先ほど無作為と言われたが、認知症や単身高齢者の場合はアンケートが生きてこない。事前に地域に相談するなどの方法をとれないものか。

<事務局>

できれば全市民に送付できれば良いが、費用面を考えると難しい。無作為抽出は統計学的に全体を反映する手段として有効だという考え方があるので、基本的にはこれでいきたい。

<審議委員>

全市民に対してどの程度の割合で実施するのか。

<事務局>

200世帯を予定している。今日は何について審議すれば良いのかという意見を頂いたが、事務局としては指定ごみ袋の価格や形、有料化自体の是非等を審議して頂きたいと思っている。また審議委員さんが言われたように、高齢化が進んできてごみ出しの負担が大きくなってきているので、負担軽減についてのご意見も頂きたい。

<審議委員>

地元紙にごみ袋の値段を下げるというような記事が載っていた。これまで1枚30円だったものが15円になれば2回ごみを出せるようになり、ごみ量が増えるのではないかと率直に思う。市民としては下がった方がありがたいが、ごみ量が増える逆効果も危惧されるので、慎重に対応すべき。

<審議委員>

ごみ袋がただになればごみ量も元に戻るのではないかと思うので、安くするのも考えものである。

<審議委員>

以前の審議会で朴先生が「ごみ袋は1ℓあたり1円にしないとごみは減らない」と言われた。そんな高いごみ袋はと当時は反対したが、確かに分別等ごみを考えて出すようになり減量化につながった。ここで安くすると元に戻ってしまうと思う一方、主婦としては少しぐらい下げてもらってもよいという気持ちも少しある。

<事務局>

1ℓあたり1円というのは、環境省の指針でもある。この価格で10%程度の減量効果が期待できるということであったが、実際には24%減量された。全国平均以上にごみ減量に取り組んで証拠でもあるが、私個人としては尾鷲市の市民に合った価格があるのではないかと思う。

<審議委員>

分別が市民に根付いてきたので、そんなに増えるとは思わない。市民を信頼して少し下げしてほしい。

<審議委員>

分別は定着していると思うが、あまり下げると元の本阿弥に戻りそう。

<審議委員>

ごみ袋の価格をいくらに設定すればよいのかを審議するのか。

<事務局>

そういう場面にもなるかもしれない。次回で他市町の事例を話す予定であったが、主に4つのパターンがある。今日のところは率直な意見を頂ければと思う。

<審議委員>

学校教育の中でごみの問題を今のうちからしっかり指導してほしい。

<審議委員>

環境問題については以前から取り組んでいる。4年生では清掃工場へ見学に行き、分別等についても指導している。

<審議委員>

以前に住んでいた所はごみ出しの場所まで歩いて5分ほどかかった。一方、商店街などは家の前にごみが置かれている状態であるので、ごみ出しの負担を平均化できないものかと思う。

<事務局>

環境課は平均化と逆の方向に行っている。以前は収集場所があり、そこへ出してもらっていたが、現在は収集車がバックせずに通れる所であれば、個別の要望に応じていこうという考え方である。

(アンケート調査票(案)について、事務局より説明。その後に質疑応答)

<審議委員>

問2のその他、カン類、ビン類、紙類の収集については、週に1回ではなく月に1回ではないか。

<審議委員>

そのとおり。

<審議委員>

調査票にある「リユース」という言葉だが、あえて使うのか。自分だけ知らないのかもしれないが、一般市民を対象とする場合に適切なのか。

<事務局>

できるだけ分かりやすい言葉にしたい。

<審議委員>

ペットボトルのふたの収集は、まだ婦人会でやっているのか。

<審議委員>

今はやっていないが、大変苦勞した。スーパーに置き場所を設けたが、生ごみや靴が入れられており、非常にマナーが悪かった。尾鷲小学校と宮之上小学校はまだやっており、社協へ持って行っている。

<審議委員>

高齢者の方に分別方法を聞かれることがあるので、「分別が分かりにくいものは何ですか」といった設問を設けても良い。水気のあるものを新聞紙に包んで捨てたりするが、新聞紙は資源なので、どういうやり方が適切なのか。

<審議委員>

三角コーナーに入れて、それを絞ってから出している。

<審議委員>

絞って尚且つ新聞紙へ包む必要はないか。

<事務局>

その必要はないが、女性もの下着なんかはプライバシーのために新聞紙で隠して出しでも構わない。

<審議委員>

ごみ袋の値段が高いか安いかの質問はしないのか。

<事務局>

恐らくどなたも安い方が良いという考えであるので、減量についての意見が出にくくなるということを考慮してあえてしていない。

<審議委員>

問8、9に「ごみ問題」の質問があるが、ごみ問題と聞いてピンとくるのか。この質問の意図は何か。

<事務局>

一般的な質問項目になっているので、尾鷲に合ったような質問に変えたい。

<審議委員>

「ごみ減量に向けての問題」であれば分かりやすい。問10について、回答の多かった通りになるのもなのか。

<事務局>

問10については分別数ではなく、収集回数の誤りだと思う。

<審議委員>

収集回数については問2で出ている。

<審議委員>

問2で仮に80%の人が回数を増やしてほしいとなれば、週2回を3回にできるのか。

<事務局>

この質問には、資源ごみの常設ステーションを設置できないかという意見を汲みたいという願いがある。

<審議委員>

常設ステーションが2カ所あるが、PRができていない。

<審議委員>

課長の言った収集回数が少ないから常設ステーションを作るというのは、高齢者が増えている中では無理がある。収集回数は今が一杯一杯だと思うが、あえてする質問か。

<事務局>

ヘルパーさんが24時間出せるとか、もっと具体的な質問にしたい。

<審議委員>

問10はやはり分別の種類だと思うので、書き方を変えるなどして残しておくべきだと思う。

<審議委員>

常設ステーションの設置へ誘導していく質問が無い。知らない人もいるので、紹介を含めた質問にすれば良いのではないか。

<審議委員>

是非ごみ袋の収入で建ててほしい。

<審議委員>

料金を上げなくてもいいから、作ってほしい。そういうことを充実させれば、不満も少なくなると思う。

<審議委員>

紀北町のように、灰油なんかもストックできる常設場所があればと思うので、アンケートについても常設ステーションについて入れてほしい。

<審議委員>

年寄りは分別が分からないので、みんな入れ込んでいる方が多い。

<審議委員>

高齢者にも分かるPRの仕方も考えていくべき。

<審議委員>

アンケートが啓発にもなるような設問をすれば良いと思う。PRしたいことを質問に盛り込んでもらいたい。

<審議委員>

問11の意見・要望についてはあまり書かないと思うので、その欄に意見を書きやすい問いかけをしてみてはどうか。

<審議委員>

本審議会はいつもこの時間に終わるものなのか。

<事務局>

2時間以内で終わりたかったが、初回なので委嘱状の交付などもあった。次回以降はもっと短くできると思う。次回の日程については、8月下旬に開催できるように調整を行ない後日連絡をさせてもらう。

以 上 。